

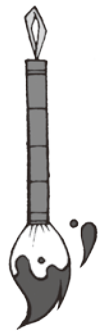
僧と伝説と光明皇后

史跡や資料館で下野薬師寺跡や下野国分寺跡・尼寺跡の解説をみると、お寺にお坊さんにお墓のようによく考へる方が多いことに気が付きます。でも、下野薬師寺、下野国分寺・尼寺にはお墓はありませんし、個人のお葬式も執り行っていないと思います。古代の寺院は例えると現代の総合大学のような施設で、仏教教義の研鑽のほか、土木技術、天文、

農学、曆学、医学、薬学についての知識も修めていたようです。著名な僧行基や弘法大師が橋をかけ、井戸を掘り、農業指導を行い、鉾山で採掘に係わったような伝説が全国あちこちに残されています。この伝説の中では2人とも実際行っていない場所が多々あると思われまゝ。恐らく行基や弘法大師伝説の元は、全国六十数か所に建立された国分寺・尼寺や地方寺院のお坊さんが指導したと考えられ、彼らがいっしょの間にか著名な高僧の名前に変わったのでしよう。古代下野国を代表する高僧として、勝道上人や慈覚大師円仁をあげることが出来ます。勝道上人にも神橋（山菅の蛇橋）の伝説があります。慈覚大師にも大蛇に関する伝説のほか、東北地方にも多くの伝説が残されています。弘法大師の井戸や行基や勝道

上人のように架橋、いわゆる土木系の伝説に登場する僧も多数存在しますが、道鏡のように医学・薬学に優れた高僧も多数存在したと思います。

上総国分寺跡（千葉県市原市）の発掘調査では、「菌院」や「油菜所」などの墨書土器が出土しています。この菌院では仏壇に供えるための花や油を採るための菜の花を育てたとも考えられますが、同時に薬草も花壇で育てたと考えられます。推古天皇元年（593）に聖徳太子が四天王寺（大阪府天王寺）を建立した際、仏教の慈悲の思想に基づき、施薬院を設置したという伝承があります。では、「施薬院」とはどのような施設なのでしょう。施薬院は、奈良時代に設置された令外官（規定以外）の庶民救済施設・薬園で、これを含め「施薬院・悲田院・敬田院・療病院」で、「四箇院」と呼ばれました。施薬院とは薬を調合し施薬する薬剤師がいる施設、悲田院は身寄りのないお年寄りや孤児を救うための施設、敬田院とは仏教の経典を学ぶ施設、療病院とは病気を治療する施設、を指します。聖徳太子の四天王寺の四箇院の存在は定かでないとの説もありますが、天平2年（730）に光明皇后（聖



下野市教育委員会 文化財課

武天皇の皇后、藤原不比等と県犬養橘三千代（の娘）が施薬院を設置し、貧しい人に薬を施し、病人を治療したと記録があります。光明皇后は仏教に帰依し厚い信仰心から施薬院や悲田院を設置したといわれています。皇后の厚い信仰心について著名な伝説に次のようなものがあります。皇后は実父である藤原不比等が亡くなるとその屋敷に法華寺を建てました。ここに大きなお風呂（現在のサウナやスチームバスのような施設）をつくり、1,000人の体を洗いました。1,000人の体を洗いました。1,000人目に重い皮膚病の人が来て、膿を吸ってくれと懇願されました。皇后は嫌な顔一つしないで、膿を吸ったところ病人は金色の光を放つ仏様になり、皇后に「あなたは私の体を洗ったのですよ」と言うとなちま姿を消してしまいました。もちろん、架空の逸話ですが、いかに皇后が信心深く情け深い人であったかを表しています。この法華寺は現在も平城宮大極殿の南東にあります。全国の国分尼寺の総国分尼寺として著名です（この不比等の屋敷の南側、二条大路に面したところには、有名な長屋王の広大な屋敷が発見されています）。